日本共産党 鹿児島市議会議員 たてやま清隆

市議会ニュースNO279（皇徳寺版）

2018年11月発行

鹿児島市山下町11-1 市役所西別館3階

☎099-216-1440

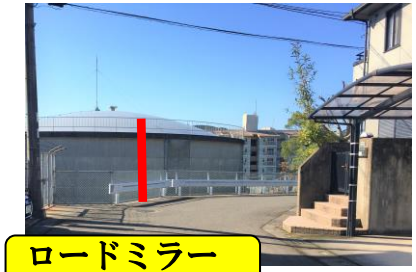
セーフコミュニティの皇徳寺のまちづくりのために

市に15カ所の道路等の改善を要請

皇徳寺では、事故やケガを予防するための「セーフコミュニティ」のまちづくりがすすめられています。たてやま市議は、住民の要望をうけて、団地内を調査した結果、15カ所の改善箇所を市に要請しました。市当局からは、要望箇所を調査した上で、今後の対応を検討するとの答弁が示されました。

1）道路標示（中央線・横断歩道）が消えている箇所の改善が必要。（南皇徳寺団地など**6カ所**）
2）事故防止のためロードミラーの設置と改善が必要。（皇徳寺台4丁目など**6カ所**）
3）南くらら台から通学する児童の階段が危険、手すり等の設置を含む安全対策が必要。
4）ふれスポ内は大型車の通り抜け道路になり危険、信号機等の設置を含む、安全対策が必要。
5）事故が多い箇所での対策必要（皇徳寺台4丁目）

南くらら台の通学路の階段の安全対策を



ロードミラーの設置が必要

交通量が増えるふれスポ内に信号機必要

事故が多い箇所で対策必要

急な階段で手すりが必要

南皇徳寺団地内の中央線が消えている

県営住宅への道路カーブが危ない

国保税引上げ反対 4432筆の署名提出

～「市民の市政をつくる会」事務局長として～

県が国保財政の責任主体となり、来年度国保税の大幅な引上げが懸念されるため市長宛に署名を提出し、引上げ反対の意思を示しました。後日回答が示されます。

市当局に要請するたてやま市議（左端）

毎日新聞 2018年(平成30年)10月31日 水曜日

国保料引き上げ反対

鹿児島の市民団体 市に4432人分署名提出

今年度から財政運営主体が市区町村から鹿児島県に移行し「国民健康保険（国保）を守り、南九州市の市民団体「市民の市政をつくる会」が31日、4432人分の署名を添え保険料の引き上げに反対する要望書を市に提出した。【曽野翔】

これまで国保は、市区町村の判断で保険料を決めていたため、負担の地域格差も大きかった。新制度では、都道府県が各市区町村の所得水準などを基に「標準保険料率」を示し、それを参考に実際の保険料を定める。市町村は、負担の公平化を目指す「自治体独自の負担軽減策」などは導入しづらく、保険料の値上げにつながる制度変更前（2017年度）の保険料を基に算出された標準保険料率（今年度）を比べてみた。

熊本市は出産育児一時金の支給などで大幅に下がり、5万5015円から約2万8000円減となった。

保険料を乗せ、宮崎、鹿児島の3市を比べてみた。

3市保険料

熊本が40万円で1.5%増

鹿児島34万円据え置き

宮崎は35万円で14%減

モデル世帯（40代夫、年収200万円）の保険料を、変更後と前が示した標準保険料率（今年度）を基に算出された標準保険料と比べた。夫婦と子供2人で所得200万円について、保険料は34万5833円となり、前年度の保険料（18万3000円）から約2万7000円増えた。一方、熊本市は約7万3800円減となった。

国保料の引き上げ反対の署名を手渡す団体側メンバー（右）

毎日新聞が報道